

## A 話すこと・聞くこと部会 平成30年度の研究方向

話すこと・聞くこと部会部長 恵那市立恵那東中学校 小島 光太郎

### 1 今年度の研究方向

平成30年度 中国研 研究主題

## 生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

#### 目指す生徒の姿

- ◎言語活動に魅力を感じながら、学習の意義を自覚して見通しをもち、主体的に学ぶ姿
- ◎目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎自己の変容や学びの深まりを実感して、学んだことをさらに別の場で生かそうとする姿

平成30年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

## 目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成 ～必然のある言語活動の設定と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

#### 研究仮説

- ・生徒が「話したい」「聞きたい」と思うような言語活動を設定し、言語活動を通して目指す生徒の姿を具体化して描き、学習する意義を生徒に理解させながら見通しをもって学習させることで、生徒は目的や場面に応じて適切に表現する力を身に付けるであろう。
- ・さらに生徒自身が自己の変容や学びの深まりを自覚するような評価の工夫を行うことで、生徒自身が言語能力の高まりを実感し、別の場でも学びを生かそうとするであろう。

### (1) 指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と、岐阜県全域における「中国研ホームページを活用した情報共有」の推進
  - ・指導計画の段階で、指導事項と照らし合わせながら言語活動の完成形をより具体的に描く。
  - ・その中で生徒に「付けたい能力」を身に付けさせるために、どのような姿が見られたらよいのかという具体的な姿を明確にする。(黒板写真・授業資料の共有)
- ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発
  - ・「話したい」、「聞きたい」と思うような魅力あるテーマ設定を考える。同時に「話し合わなければいけない」といった必然あるテーマについても考えていく。

### (2) 指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
  - ・課題化までに、必然を感じさせるような効果的な導入の工夫をする。
  - ・効果的なモデル提示の在り方を工夫する。
- ②「どの子」にも「確かな学力」を身に付けるための手だての工夫
  - ・うまくできない生徒ができるようになるための「苦手を克服するための手立て」はもちろん、得意な生徒がさらに上のレベルを目指せるようにするための「得意を伸ばす手立て」も考える。

### (3) 評価の工夫

- 生徒自身が50分間での自己の高まりを実感することができる場の位置付け
- ・学習活動の中での自己の姿を客観的に知り、評価できるような音声言語教育の評価の在り方を工夫する。(ビデオカメラやICレコーダー、タブレットといった機器の効果的な活用)

## 2 今年度の実践報告

### (1) 夏季研修会での実践発表

本年度 8 月 20 日に実施された夏季研修会の中で、夏休み前までに行った実践で、「話すこと・聞くこと」部会の研究構想をもとにして行った授業について実践発表を行った。

- ◇ 発表者：武市諒太郎 教諭（東白川村立東白川中学校）
- ◇ 単元名：「魅力的な提案をしよう」プレゼンテーションをする（第 2 学年）
- ◇ 教材名：私たちの職場を紹介しよう～「2 年生の『働く場所開拓』～
- ◇ 研究との関わり

#### ① 【研究内容（1）指導計画の工夫 ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発】について

生徒が 7 月上旬に、村内にある事業所に職場体験学習へ行き、働くことについて学ぶとともに職場の魅力について感じる事ができた。村内では人口減少に伴って働き手の数も減少しており、生徒はそのことに課題意識を抱いている。そこで、職場の魅力を村外の方に知ってもらいたいということを出発点として、「私たちの職場を紹介しよう」というテーマを設定し、自分たちが職場体験学習で感じた職場の魅力を紹介するという言語活動の設定を行った。

さらに、学校独自で「ふるさと題材系統図」を作成し、中学校 3 年間の学習の中で「ふるさと」をテーマにした題材を開発し、生徒が学習への必然を感じながら主体的に「話したい」と感じるようなテーマ設定を工夫している。

#### ② 【研究内容（1）指導計画の工夫 ①「生きてはたらく言語能力」のさらなる明確化】について

本単元において、生徒がどのような力を身に付けることができたらいのかを、単元を構想する時点で可能な限り明確にした。

新学習指導要領には、「資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」と書かれている。さらに解説を読むと、「資料や機器を用いるのは、話の要点や根拠を明らかにしたり、説明を補足したり、中心となる事柄を強調したりするなど、聞き手に分かりやすく伝えるためである。」と書かれており、「説明を補足する」という目的で使うこととした。そして、「説明を補足する」する姿を「写真資料を話の内容と合わせて示し、実物を正確に伝える姿」だと定義付け、このような姿を身に付けさせられるような指導を行うことができた。（図 1）



図 1：「説明を補足」しながら話す生徒の姿

### (2) 「話すこと・聞くこと部会」研究部員の先生方の実践の蓄積

話すこと・聞くこと部会の研究部員の先生方にも、研究構想をもとにして意欲的な実践を行っていただき、成果を蓄積していくことができた。12 月 27 日に実施した研究部会の中で実践を発表いただいた先生方の実践について紹介をする。

#### ① 川久保智子 教諭（岐阜市立長良中学校）

◇単元名：「パネルディスカッションをする」（第 2 学年）

#### 【研究内容（1）指導計画の工夫 ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発】について

単元の導入の時間を「学習の目的・必然をもたせる時間」と定め、意識調査の結果を提示し問い返すことで「自分の考えを仲間に伝えたい、もっと分かりやすく話せるようになりたい」という意欲をもたせた。次に、「自分の考えを広げ深める」というパネルディスカッションの特性をモデルの提示によって十分に認識させることで、「自分の考えを相手に分かりやすく伝え、自分も考えを広げ深めるにはどうすればいいのだろうか」という単元を貫く課題を設定し、授業を進めていく必然を生み出した。

#### 【研究内容（2）指導援助の工夫 ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫（モデル提示）】について

本単元の「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」の力を身に付けさせていくにあたり、十分なイメージをもたせるため、パネルディスカッションの形態についてモデルを提示した。モデルの提示によって「こんな風に話し合えるようになりたい」という意欲につながった。（図 2）



図 2：モデルを見る生徒の姿

② 太田慎哉 教諭 (中津川市立付知中学校)

◇単元名：「話し合って考えを広げよう～パネルディスカッションをする～」(第2学年)

【研究内容(1) 指導計画の工夫 ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発】について

「これからの付知に必要な職業はこれだ!」というテーマでパネルディスカッションを行った。生徒が暮らす町のこれからの考えるテーマであり、話す必然が生まれた。

【研究内容(1) 指導計画の工夫 ①「生きてはたらく言語能力」のさらなる明確化】について

「相手を尊重した話し方」を身に付けることをねらいとし、どのような話し方ができればよいのかを具体的な話形として示したことで、生徒がその話し方を意識して話すことができるようになった。(図3)

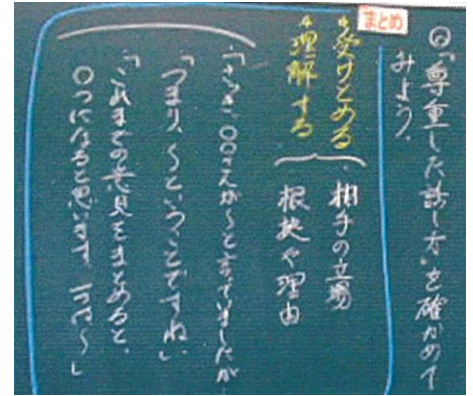


図3：「相手を尊重した話し方」の話形

③ 加藤祐輝 教諭 (岐阜市立加納中学校)

◇単元名：「論点を捉えて～話し合いの「技」を身に付ける～」(第1学年)

【研究内容(1) 指導計画の工夫 ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発】について

第3時では、「学級レクの内容を決める」という日常生活に直結する話題を提示し、ディスカッションをすることの必然をもたせ、自分の考えの形成をはかった。

【研究内容(1) 指導計画の工夫 ①「生きてはたらく言語能力」のさらなる明確化】について

「話し合いの『技』」を身に付けさせることをねらいとした。話し手、聞き手、そして司会者に、それぞれ話し合いをうまく進めて互いの考えをまとめるための「技」を明確に示した。(図4)

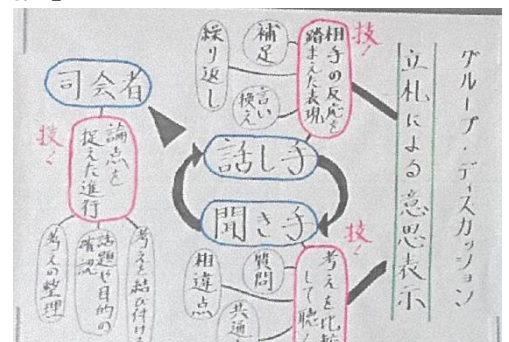


図4：生徒と共有した「話し合いの『技』」

(3) 「中国研ホームページを活用した情報共有」への資料提供

以下の3名の先生方の御実践について、「中国研ホームページを活用した情報共有」に資料を提供した。

① 武市諒太郎 教諭 (東白川村立東白川中学校)

◇単元名：「魅力的な提案をしよう」プレゼンテーションをする (第2学年)

◇教材名：私たちの職場を紹介しよう～「2年生の『働く場所開拓』～

◇提供資料：学習指導案・黒板写真・実践を終えての感想

② 川久保智子 教諭 (岐阜市立長良中学校)

◇単元名：「パネルディスカッションをする」(第2学年)

◇提供資料：学習指導案・黒板写真・学習プリント

③ 加藤祐輝 教諭 (岐阜市立加納中学校)

◇単元名：「論点を捉えて～話し合いの「技」を身に付ける～」(第1学年)

◇提供資料：学習指導案・黒板写真・学習プリント

今回は、「より再現性の高いもの」という観点を大切に、中国研のホームページを見てくださった方が「なるほど。」「こんな風にやればいいのか。」と感じ、「やってみよう。」と思ってもらえるように、黒板写真のみでなく、学習指導案や学習プリントも提供していただいた。

また、実際に実践を終えて、「こうすればよかった。」と感じた点については「実践を終えての感想」として同様に掲載し、課題を踏まえた実践を行っていただけるようにした。

### 3 今年度の成果と課題

- 「必然のある言語活動の設定」を副主題に掲げ、生徒が話したり、聞いたり、話し合ったりする必然のあるテーマ設定を工夫することができた。生徒が生活する学校生活の中からテーマを見出したり、社会生活の中からテーマを見出したりと、様々なテーマがあった。市役所等の公的機関から依頼という形で提示し、テーマを必然のあるものにする実践もあった。
- 「目指す姿の具体化」が多くの実践の中でなされていた。「目的や場面に応じて適切に表現する」姿を、「学習指導要領の指導事項」→「学習指導要領の解説」→「目指す姿」というような順序で具体化されていた。上記の実践のように、「技」という形で示されていたり、話形のレベルで「このような話し方ができれば○」という形で示されていたりと、単元の導入時点で目指す姿を教師と生徒とで共有することができた。
- 上記の成果によって、生徒が話したり聞いたり話し合ったりすることに対して必要感をもちながら、主体的に学習に取り組む姿が多く見られた。結果、「目的や場面に応じて適切に表現する」力が身に付いたことを生徒自身も感じることができるようになった。
- 「目指す姿の具体化」を行ったが、それを適切に評価することの必要性和難しさを感じた。いつ評価するのか、どのような方法を用いて評価するのかということが十分明確にできなかった。
- 「生きてはたらく言語能力」及び「言語活動例」一覧表について、県下の先生方に活用していただくことを念頭に置いて加筆・修正をしたいと考えていたが、そこまで至らなかった。

### 4 来年度の方向

#### ① 「必然のある言語活動の設定」の継続

- ・学習に対する必然(なぜその学習を行わなければならないのかといったことや、その学習を行うことの価値)をもたせ、生徒と共有すること。
- ・「話してみたい」「話し合いたい」というような生徒が主体的に活動するテーマの設定をすること。

#### ② 評価の仕方の明確化

今年度の副主題の中で、「目指す生徒の姿の具体化」を掲げ、授業の構想段階で「どのような姿になればいいのか」ということを明確にしてから授業を行うことができた。来年度は、そのように具体化した姿を、いつ、どのような方法で評価するのかといったことについて明確にしていきたい。さらに、生徒自身が自己の高まりを自覚できるような評価方法についても考えたい。

#### ③ 「生きてはたらく言語能力」及び「言語活動例」一覧表の加筆

上記のように、研究部員の先生方を中心にして実践を積み重ねた結果、実践を蓄積することができている。そのことを「生きてはたらく言語能力」及び「言語活動例」一覧表に加筆という形で反映させていき、さらに精度の高い実践を行えるようにしていきたい。

#### ④ 付けたい力が効果的に身に付く単元の構想

限られた時間の中で、どのように単元を仕組んでいくと、生徒に効果的に力を身に付けさせることができるのか。単元の中に練習の時間を組み入れたり、他領域との関連指導を行ったりと、どのように単元を仕組むと効果的に力を身に付けさせられるのかについて考えたい。また、独話(スピーチやプレゼンテーション)の時と対話(ディスカッションや会議)の時とで同じような手立てがあるのか、それぞれ異なるような手立てがあるのかについても考えてみたい。